

会 議 録

名 称	第9回第七中学校・第九中学校統合新校推進協議会
日 時	令和5年7月28日（金）午後7時から午後8時30分まで
会 場	第七中学校体育館
出席者	39名
会議次第 会議の結果 及び 主な発言	<p>1 開会</p> <p>(会長) 本日の議題は「校名の公募結果及び一次選定結果、生徒投票及び委員投票結果について」「校名候補の協議について」である。</p> <p>2 校名の公募結果及び一次選定結果, 生徒投票及び委員投票結果について (報告)</p> <p>【説明概要】 (学校統合推進課長)</p> <p>資料1により校名の公募結果及び一次選定結果を説明する。「1 公募結果」のとおり、応募総数としては365名の方から389件の応募があった。これまでの区の統合の取組に比べ保護者・地域の方からの応募が非常に多かった。応募された校名案の種類は205種類であり、別紙1に応募された校名案の全理由を記載している。</p> <p>「2 一次選定」のとおり、教育委員会において1次選定を行うに当たり、四角囲みの基準に該当するものは除外した。</p> <p>2票以上の応募があったもので除外したものは、「単純な数字表記のもの」が4件（十六、第十六、第二、七九）、「特定の団体を示すもの」が1件（円融寺）あった。</p> <p>「応募件数が極めて少数なもの」については1件の応募のものとし、ただし「1件の応募であっても校名案の理由により、教育委員会が二次選定の対象とすることが適当であるもの」について1件あった。資料1の裏面に「教育委員会が二次選定の対象とすることが適当と判断した基準を記載しており、①～③の全てに該当するかどうかを確認した。</p> <p>その結果、別紙2記載の28の校名案を2次選定に進めることとした。28番の「南陽中学校」については、応募数が1票であったが校名案の理由から、2次選定に進めることが適当であると教育委員会が判断したものである。</p> <p>資料2により生徒投票及び第1回委員投票結果を説明する。2次選定に進めた28の校名案について、本日の協議における参考とする</p>

ため、生徒投票及び委員投票を7月12日～20日まで行った。生徒投票については、学校の協力も得て全生徒の85%以上が投票している。

生徒投票・委員投票の投票結果は別紙1のとおりである。また、投票では投票理由の記載は任意としたが、別紙2に生徒投票の理由を、別紙3に委員投票の理由を記載している。

【質疑・意見】

(会長) それでは内容について、ご質問・ご意見があれば伺う。

(意見なし)

2 校名候補の協議について

【説明概要】

(学校統合推進課長)

資料3により校名候補の協議について説明する。この説明後、意見交換、全体発表を行い、午後8時から委員投票を行い、集計作業を行う。集計作業終了後、午後8時15分から投票結果の報告、二次選定に向けた協議を行う。

グループワークの意見交換に関しては、6名又は5名を1組とし、個人意見の発表を10分、その後グループ内での意見交換を20分、各グループからの発表を1グループ2分程度で15分設けている。

「3 意見交換(グループワーク)」のとおり、意見交換の内容については、「2 望ましい校名候補の選定基準」を踏まえて、①選定に当たっての考え方や、②望ましいと考える校名候補について行っていただきたい。

四角囲みの注意事項に記載のとおり、①校名案をグループで1つに絞るわけではないこと、②グループワーク終了後の委員投票の際の判断材料のひとつとするためのものであること、③他人の意見や、一方の中学校や地域、特定の校名案に対する否定的な発言は、できるだけ控えるようお願いしたい。

「4 委員投票(第2回)のルール」のとおり、1人必ず3票とし、1票又は2票、そして4票以上の場合は、無効とする。

そして、投票の結果、投票数の上位から5候補をお選びいただき、5位が同数の場合には決選投票を行い、5候補としたい。

資料4により協議結果報告書案について説明する。この投票結果を協議結果報告書として提出していただくため、その報告書案を示している。この協議結果報告書の提出を受け、8月8日の教育委員会において、2次選定の協議を実施していく。

【質疑・意見】

(会長) それでは内容について、ご質問・ご意見があれば伺う。

(意見なし)

(会長) それでは、これからグループワークを行います。各グループで個人意見の発表、意見交換を行ってください。

【グループワーク後の各グループからの発表】

- 子どもたちが書きやすいように、文字数が少ない校名が良い、目黒とつけるとエリアが分かりやすい、生徒の応募数を考慮して、子どもの意見を取り込んで選んだ方が良いとの意見があった。
- どちらの地域にも偏らないという意味で「南」「桜」、桜の花に囲まれた地域ということ。また洗足に位置するため「洗足」が挙がった。地域として「城南」も良いのではないかと。また「碑衾」の響きが良い。やはり生徒投票数を尊重して「洗足」が有力な感じになったが、大田区の千束との混同が心配。「南」や「桜」にしても「目黒」が付いていた方が、別の地域でありがちな名前なので区別できて良い、といった意見があった。
- 地名があると場所が分かりやすいので地名があれば良いという意見と、逆に「洗足」と付けた際に、通う生徒は原町の子もいれば目黒本町の子もいるので、特定の一部の地名にして良いのか。地名ではなくイメージとするのもありなのではないか。一般的な「桜」「南」など、また「洗足」についても「目黒」を付けると良い。また生徒投票の数の多いものについては考慮すべきではないか。地名の校名であったとしても「碑衾」や「碑文谷」であれば、第七中学校と第九中学校の校区も含む広い地域を指す名前なので良いのではないかと、といった意見があった。
- 地名が入った方がどこにあるか分かりやすいが、地名が入ることで複雑な思いをする人もいる。第七中学校の生徒投票で洗足中学校への投票が多いのが不思議である。他区にもあるような「城南」や「新生」も良いのではないかと。「洗足」については、生徒投票で過半数を超えるのであれば良いが、307人中70人というのは微妙ではないかと、といった意見があった。また、ひらがなと漢字はどちらが良いのかという話題になった。
- 他自治体にたくさんある名前よりも、オリジナリティ、唯一感のある名前が良い、第七中学校・第九中学校のそれぞれの思いを込めたい、学校がどこに存在するのかが分かる方が良いということで「洗足」が良いのではないかと。また、歴史的背景も踏まえて第七中学校・第九中学校の両方の地域をカバーできる「碑文谷」が良いのではないかと。この学校に通う子どもたちが通学した小学校の碑、月光原、

原町、向原の名前を一文字ずつ使用している「碑原」が良いのではないか。また、第七中学校の花が梅、第九中学校の花がひまわりということで花を大切にしていることを踏まえて、どちらかを使うわけにはいかないのが目黒の花ということで「桜」が良いのではないか。目黒区の地区を考えた時に南部地区で唯一の中学校になることから「南」を使うのが良い。生徒たちが選んでいる学校名と、委員含めた大人が選んでいる学校名の基準が異なっていることから、生徒の意見を尊重すべきではないか、といった意見があった。

○ 第七中学校・第九中学校のどちらにも偏ることもなく、ニュートラルな立ち位置で考えた方が良い、生徒投票と委員投票の割合を見たときに少し乖離があるので、子どもたちが通うことを考えると少し斬新なものでも良いのではないか。「洗足」については、洗足学園のイメージがある世代とない世代というギャップがあるのではないか。これから子どもたちが通う中学校となるので、しっかり考えて、投票することが必要であるといった意見があった。

【投票の実施・集計】

事務局から以下の集計結果を報告した。

1位	目黒南・みなみ	16票
2位	目黒さくら・桜	15票
3位	碑文谷・ひもんや	13票
4位	目黒洗足	11票
5位	洗足	8票
6位	碑さくら	5票
7位	洗足南	4票
8位	南陽／碑原／碑衾	3票
11位	桜・さくら／南	2票
13位	碑／清水／清南／ 洗足銀杏・洗足いちょう／ 南部	1票
18位	北山／清水池／城南／ 新星／真洗足／にこま／ 西小山／富士見台／ 目黒／目黒本町／令和	0票

(学校統合推進課長)

幹事会で確認し、上位投票数の5位までを二次選定にあたっての協議会としての望ましい校名候補として報告することにしたので、上位5候補である「目黒南・みなみ」、「目黒さくら・桜」、「碑文谷・ひもんや」、「目黒洗足」、「洗足」を協議会として望ましい校名候補、三次選定に進めるべきとする候補とすることによってよろしいでしょうか。

(異議なし)

(学校統合推進課長)

では、この5候補を望ましい校名候補として報告し、教育委員会で二次選定、三次選定と進めさせていただきます。

本日の発表でご意見いただいた内容につきましても今後の選定の参考にさせていただきます。

これで投票については終了といたします。

(会長) 集計結果を受けて、協議会で、3次選定に進めるべきと考える校名案の数について、投票の上位5候補とする。

4 その他

統合新校開設準備委員会及びその下部組織である検討部会の開催状況について事務局から説明を行い、今後の検討状況や取組については、統合新校推進協議会連絡・報告会において随時情報提供・意見聴取することを伝えた。

5 閉会

最後の協議会の閉会にあたって、事務局及び会長から挨拶があった。

以 上